

NEXCOM の車載コンピューターが ローカル電気バスの燃料消費と CO₂ 排出 量の削減に貢献

燃料消費量をカットし二酸化炭素 (CO₂) 排出量を削減するための試みとして、現在ネクソムの車載コンピューターを装備した電気バスが日本の都市部・郊外を走っています。上昇する温室効果ガス排出量と高い燃料コストという問題を抱えるいくつかの都道府県が、環境に優しく、地域の交通・経済問題を軽減できる公共交通手段として電気バスに注目しています。

これらの電気バスは、自動車用電池で終日ルートを行き来しています。ルートによっては位置情報や空調も必要となり、これにも電力が必要となります。安全で信頼性があり楽しい移動サービスの提供は、結局のところバッテリーの使用状況とバスの綿密なモニタリングにかかっています。そして、車載コンピューターが求められるのはこのためです。

ネクソムの車載コンピューター VTC 7110・VTC 1000 は CANbus プロトコル、3G 接続、GPS トラッキング & ナビゲーション、グラフィック機能に対応しているほか、アプトポッド社の開発したクラウド連携のテレマティクスソフトウェアが搭載されています。

また、これら車載コンピューターは東京アールアンドデー社が開発した大型・中型電気バスに適した設計となっています。

電気バスの運行中はこれらの車載コンピューターが数ミリ秒 (ms) に一度の間隔で数百の車両データを集め、バスオペレーターに運転速度、バスの位置、バッテリー充電率、バッテリーランタイムなどを伝えます。また、これらのデータは圧縮されてクラウドサーバーに送られますので、Web ブラウザとインターネット接続があればいつでもどこからでもアクセスできます。

乗客向けの情報ディスプレイシステムを搭載したバスならば、VTC 7110 を使用して現在地、次の停車場への到着予定時間、近隣のシ

ョップや各種スポットなど (すべて Google Map™ に表示) の情報を乗客に知らせることができます。また、乗客にもバッテリー残量や電気バス採用によって削減された CO₂ 排出量が表示されます。

沖縄は自動車所有率が高く、温室効果ガス排出の要因となっています。また、南部での交通量は観光産業の安定的成長のために増加の一途をたどっています。同様に、徳之島の人口一人当たり自動車台数は非常に高く、環境に悪影響があるだけではなく、離島の燃料費が本土よりも高いことから地域経済にも影響を及ぼしています。また秋田では、より環境に配慮しつつ雪深い冬期にも郊外から快適に通勤が可能な代替交通手段が求められています。

GPS 機能やモバイル通信機能を 1 台に内蔵できる、ネクソムの高耐久車載用コンピューターが電気バスの安定した運用管理に活躍しています。

東京アールアンドデーについては www.tr-d.co.jp 参照。

